2025年1月29日

日本プロテオーム学会（2024年~2025年理事）

2025年 第三回理事会 議事録

開催日時: 2025年1月29日（火）15:00-18:00

会場: 国立がん研究センター研究所 8F 会議室

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

オンライン: <https://keio-univ.zoom.us/j/5198755214>

参加者(50音順, 敬称略)

足立淳、足達俊吾、阿部雄一、荒川憲昭、石濱泰、今見考志、植田幸嗣、太田信哉、小原收、木村弥生、小寺義男、小林大樹、近藤格、榊原陽一、杉山直幸、武森信暁、田中恒平、野口玲、増田豪、松本俊英、松本雅記、三城恵美

欠席者

岩崎未央、奥田修二郎、川上隆雄、河野信、渡辺栄一郎

1. 学会長の挨拶（松本雅）

- 今期の2年目を迎え、学会の活性化に向けた活動について、協力の依頼があった。

[報告事項]

1. 会員状況(木村)

(1) 会員数（2025年1月9日現在）

種別	会員数
個人会員	個人会員 559名（個人会員:466名 ^{※1} , 個人会員(法人登録):93名） （昨年:521名、一昨年:507名、本年度新規入会者:53名）
名誉会員	4名
学生会員	271名(184名 ^{※2}) （昨年:380名、一昨年:349名、本年度新規入会者:34名）
法人会員	13社（昨年 14社、一昨年 13社）
合計	835名+13社（昨年:901名+14社）

※1 2021-2023年度(過去3年間)会費未払い者 543名を除く（昨年:532名）

※2 メール不達者除外

- 会員数大きな増減がないことの報告があった。

(2) その他

2. 会計状況

(1) 現貯蓄額 (2025年1月9日現在) (荒川)

口座	残額
事務局口座 (ゆうちょ銀行)	¥7,635,491
奇数年度大会口座 (ゆうちょ銀行)	¥583,903
偶数年度大会口座 (ゆうちょ銀行)	¥169,376
合計	¥8,388,770

- 会計状況についての説明、別途、500万円の定期預金があることの報告があった。

(2) その他

助成金 (JPDM 国際情報発信強化)(杉山)

科研費助成金口座(三菱 UFJ)	¥1,973,785
------------------	------------

- その他必要な支出があり、150万円ぐらいの残金が想定される旨報告があった。

3. JPrOS2024 大会(近藤)

- JPrOS2024 大会について、近藤先生、野口先生より、大会開催についての感謝の旨コメントがあった。

4. JPrOS2025 大会(小原)(資料1)

- JPrOS2025 大会長小原先生より JPrOS2025 大会について、基調講演、HP の公開、会場 (かずさアカデミアホール)、会費、懇親会、大会プログラム、演題登録等のスケジュールについての報告があった。
- 企業協賛も十分に集まっていることの報告があった。
- 学会側が担当する KHUPO、APS の講演者、8/8 日に枠を準備した JPrOS セッションに関する情報が必要との話があった。
- 今回、かずさ DNA 研究所共催として資金援助があり、かずさ DNA 研究所所員の学会参加費の免除とすることについての承認依頼があった。

上記について理事会で承認された。

5. HUPPO 活動報告(近藤)

(1) HUPPO 関連

- 学会賞の受賞者(学会通信でご報告済み)も含め盛り上がった旨報告があった。

- 理事会についてはアメリカローカルの話のみであったこと報告があった。

(2) その他

- HUPO アワードについて、日本からの推薦を考えてもいいのではないかとの意見があった。→HUPO アワードについて募集があり、日本として推薦してはいるが、新潟の山本先生以来受賞されていない、欧米で決まってしまう傾向がある。

6. 各担当理事からの報告

(1) 学会誌 (小林)

i. Proteome Letters について

- 昨年の第2巻が3報。入稿済みで来月公開予定であること報告があった。
- 過去の受賞者への投稿依頼があった。
- 政府の方針「即時オープンアクセス方針への対応について」説明があった。科研費での研究内容を論文化した場合、機関リポジトリで公開する必要があり、Proteome Letters についても 2026 年度までに少なくとも投稿規定にグリーン OA に対応していることを記載する必要があることの報告があった。Proteome Letters については CC BY (ゴールド OA に対応) にする計画があり、CC BY にすることで完全に対応できるのではとの意見があった。また、レビュー論文記載について、オリジナル論文が CC BY でない場合、著作権に注意する必要があること注意喚起があった。本件、急ぎの対応は必要ないが、次の理事会の審議事項とすること、申し送りとなった。(JPDM は対応済み)

ii. JPDM について

- 科研費(~2025 年度)を受けており、国内 30 報を計画している、現在国内 25 報なので、国内 35 報を目指したい旨報告があった。

(2) 学術企画 (野口)(資料 2)

- 第 47 回日本分子生物学会年会ワークショップ企画 ミニシンポジウム(開催済み)
日時：2024 年 11 月 29 日 (金) 15:10-16:30
疾患に関与する宿主と腸内細菌叢の相互作用研究
座長：岩崎 未央 (京都大学)、渡辺 栄一郎 (北里大学)
- 第 25 回日本蛋白質科学会年会ワークショップ (採択済み)
日時：2025 年 6 月 20 日(金) 8:30-11:00
細胞制御機構の包括的理解のためのプロテオーム解析技術
座長：小寺 義男 (北里大学)、太田 信哉 (北海道大学)
- 第 98 回日本生化学会大会 公募シンポジウム (申し込み予定)

プロテオーム解析技術が拓く新しい生命現象
座長：今見 考志（理化学研究所）、太田 信哉（北海道大学）

上記、企画について報告があった。

(3) 学術活性化(小寺)

- 委員会を Zoom で 3 回開催したこと、イニシアチブや HUPO について相談を行っている事の報告があった。

(4) 国際担当(石濱)

- AOHUPO の 2025 中国広州 10/11~14(CNHUPO との共同開催)開催されること、HUPO2026 がシンガポールで開催されることが報告された、日本からの参加を促す旨も説明があった。

(5) 教育担当(今見)(資料 3)

- 2025 年 2/27,28 日に理化学研究所でデータ解析に特化したトレーニングコース開催を予定であること、学生を中心とした 21 名の参加 (50 名近くの応募の中から、教育担当が学生を中心に参加者を選考、参加者は会員と非会員が同数程度となり、企業は製薬および食品関連が多い) が決定した事の報告があった。また、来年度は、北里大学松本先生 (FFPE 解析)、あるいは岐阜大学の阿部先生(糖鎖解析)中心に開催予定であることが報告された。今年度のトレーニング資料については希望しながら参加できなかった方に共有予定であること、参加者は有料なので別途公開時は有料の予定であること、会計は独立採算であること、会員非会員で参加費用が異なることなどの説明があった。

(6) 広報活動(田中)

- 河野先生との引き継ぎから行う予定であることの報告があった。

7. その他

【審議事項】

1. サーバー移行費用を予算に組み込むことについて(メール、HP、会員管理)(松本雅)(資料 4)

- デザインリンクス (ASJ: 年間 4000 円 + α) についてシステムが古く解約予定、独自に開発する。実際の運用開始は、テストを行いながらかざき大会以降とする予定であること報告があった。ホストサーバーについて、さくらインターネット (月 550 円) との契約に変更する予定であることが報告され承認された。

2. 2024年大会会計(荒川)(資料5, 補足資料)

2024年度新潟大会の納税について、また、2025年度青森大会の収支について報告があり、納税が必要な場合は税金について学会側が支払うことについて承認された。また、以下の説明や議論が行われた。

- 税理士事務所より、年会が黒字でも赤字でも法人税はかかる事の報告があった。
- 事業収益に対する課税の考え方は、税理士事務所ごとに考え方が異なる可能性がある、複数の会計事務所に伺うことも必要かもしれない。
- JPrOSとしては、過去の問題や、今後の継続性を考え学会が基盤となるシステムを準備し、積極的に年会に関与する仕組みの構築を行ってきた、一方、大会の運営について、研究者の労力を減らすために運営会社に会計も含め任せてしまう方法もあるのではないかという議論が行われた。最終的には、学会と年会を切り離すことはできないということが確認された。
- 大会運営について、文章化することの希望があった。現在、執行部を中心に大会運営の文章化を進めており、今後拡充して覚書とする方針が報告された。さらに覚書を元に大会運営について大会長等の役割や裁量についての認識を共有する必要がある事が確認された。
- 大会について学会から大会に50万円の事前のサポートを行っており、現在は大会から学会に返還しないことになっているが、これを返還することにし、それを税金に充てることで良いのではとの意見があった。

3. 2025年大会報告(小原)

- 上記の通り

4. 規約の改訂について(増田)

[学会長の重任について]

(改定前)

第3章 役員

第12条 (役員を選出及び任期)

第12条1 (会長、副会長の選出と任期)

会長、副会長及び監事は理事の互選により、理事会で選出される。会長、副会長及び監事の任期は2年とする。会長の重任は認めない。

(改定案)→会長の2期連続の重任を認めない。

- 制限の緩和を求めたい。連続は認めないが、間があれば再任があってもいいのではないか。
- 回数制限はどうでしょうか？→一定年の制限があるので問題ないのではないか。
- 若い世代に理事等の仕事を任せては？→若い世代に理事等の仕事を任せて活性化するという考え方には賛成だが、若い世代には研究に集中していただくのが良いとも考えられる。適切な方がおられない可能性もあり、3年任期のときはよかったものの、2年任期になったらメンバーが足りなくなりがちである。

「会長の2期連続の重任を認めない」と変更することについて承認された。

[議論事項]

1. 活性化委員(小寺)

(1) イニシアチブについて

様々なアクティビティーをあげる目的であり、学会が正式に認めた活動としてお互いに活性化するという位置付けであり、実施したい人が学会に申請して、認めてもらうということを考えており、トップダウンの義務が伴うものではないとの説明がされ、以下の議論が行われた。

- 申請と承認の仕組みや基準については、規定を定める必要がある。
- メリットとして、学会のセッションの枠が与えられ企画できること、標準化など取り組み場合に学会のお墨付きがある、申請・基準に有利になることが考えられる。
- 企業の関わりについて営利的な目的でイニシアチブを使うことは問題がある可能性があり、規定などで整理し明文化する必要がある。セミナーのサポートなどの支援を受ける際など場合などは問題ないと思われる。
- 武森先生：イニシアチブとして、JSPSの支援でシンポジウムを開催した時、JPrOSの配信もかなり効果があった。jPOSTやJPDMもふくめ、良い影響がありそう、海外にアピールする際は、JPrOSのサポートはメリットになりそう。

(2) HUPO 招致(2029年, 2032年)について

- 2029年については招致見送りの方向が確認された。

2. Award 関連 (石濱)

(1) 山下賞 (仮称) について

青森大会でESIを開発した山下博士の業績を称えるべきだとの意見があった。山下博士より、賞の設立や名前の利用について了承は得ており、海外に挑戦する若い人

を応援する賞とする事について説明があった。

- 2025年度の年会で表彰する山下賞（仮称）の設立すること、また、種類については、トラベルアワード程度とすること、賞金の出資社（1賞につき1社）に関して広く寄付依頼の連絡を行う事、応募資格や他の賞を設立の可能性も考え規約や趣意書についてメール審議を行うプロセスについて承認された。

(2) 学会賞推薦書雛形(増田)(資料6)

推薦書について応募者それぞれにフォーマットが違うので、雛形があった方が公平ではないかという意見があった。作成中の雛形について以下、内容の議論が行われた。

- 業績は、research map を活用するのが良い。
- 論文リストは、関連したものだけに絞ると良い。5報程度（リンクもOK）
- 学会（HUPOなども）での活動実績など。入れた方がいい。
- 他に記載してはいけないものではない。
- 本人のエントリーシートと推薦書は分ける必要がある。
- 送付は、推薦者が行うことにする。
- 学会賞と奨励賞にも適用。奨励賞には年齢を記載すべき。
- フォーマットはHPからDL可能になると良い。
- 教育実績も入れる（いわゆる大学での教育実績ではない）

(3) 受賞者のHP記載について(松本雅)

- HPの更新についての希望があった（広報委員によって新しいHPでの更新を行う予定）。
- 受賞者について、HUPOの頃とJPrOSと分ける必要などがある。過去の情報を集めるのは困難（継続議論）